

血栓症の現状の報告とFMの有効性のご紹介

座長 : 羽藤 高明 (愛媛赤十字血液センター 所長)
演者 : 山之内 純 (国立大学法人愛媛大学医学部附属病院 輸血・細胞治療部)

血栓症の現状の報告とFMの有効性のご紹介

◎山之内 純

国立大学法人愛媛大学医学部附属病院 輸血・細胞治療部

血栓症について、高齢化や生活習の欧米化に伴い、わが国においても近年増加傾向にある。特に心筋梗塞、脳梗塞、肺血栓塞栓症のように生命にかかわる血栓症疾患においては早期診断、早期治療が大切になる。そこで、血栓症急性期や血栓症に至る直前の状態を把握できる血液マーカーの研究が進められている。血栓症とフィブリンモノマーの関係は、フィブリンモノマーの異常な生成や凝固系のバランスの崩れによって引き起こされており、フィブリンモノマーの過剰な存在は、血栓症のリスク因子となる。今回、愛媛県での血栓症の現状、可溶性フィブリンモノマーなど血液マーカーの有用性やSF/FMの違いについて紹介したい。